これからの食料生産とわたしたち　① きほん　答え

1 食料自給率について答えましょう。

1つ5点（15点）　きほん

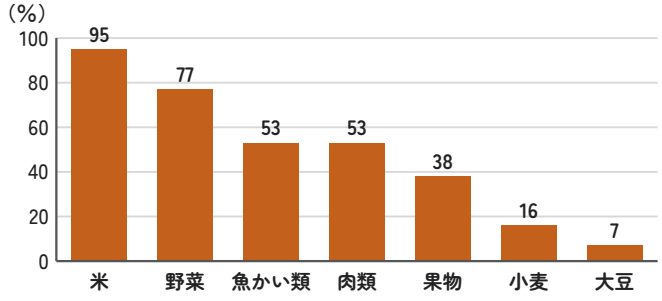
(1) 国内で食べる食料のうち、国内で生産している割合（わりあい）を何といいますか。　食料自給率

(2) 日本の食料自給率（カロリーベース）はおよそ何％？　ア 約17%　イ 約37%　ウ 約57%　エ 約97%　イ

(3) 自給率が低いのは、多くの食料を何にたよっているからですか。　輸入

2 グラフは、おもな食料の自給率です。

1つ6点（30点）　よく出る



資料：農林水産省「食料需給表」（2025年度・概算）

(1) 自給率がいちばん高い食料は？　米

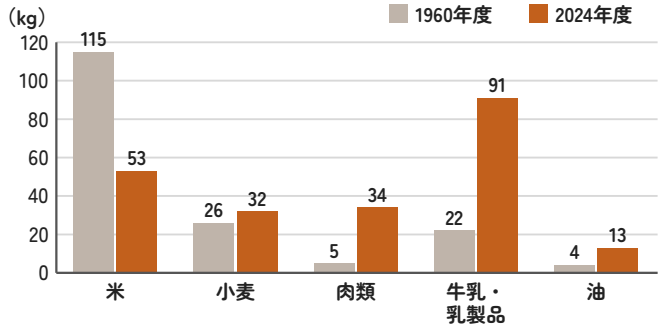
(2) 自給率が20%より低い食料を2つ。　小麦　大豆

(3) 小麦からつくる食品は？　ア パン　イ とうふ　ウ みそ　ア

(4) 大豆からつくる食品は？　ア うどん　イ とうふ　ウ もち　イ

3 グラフは、1人が1年間に食べる量の変化です。

(1)(2)5点 (3)10点（20点）　よく出る



資料：農林水産省「食料需給表」 1人1年あたり

(1) 1960年度より大きく減ったものは？　米

(2) 増えたものを2つ。　ア 米　イ 肉類　ウ 牛乳・乳製品　イ・ウ

(3) 食生活の変化と、自給率が下がったことの関係を書きましょう。

自給率の高い米を食べる量が減り、輸入にたよる肉や小麦、油などを多く食べるようになったから。

4 説明にあうことばを選びましょう。

1つ5点（20点）　きほん

語群　ア 地産地消　イ トレーサビリティ　ウ 食品ロス　エ 輸入

(1) 地元でとれた物を、地元で食べること。　ア

(2) いつ・どこで・だれが育てたかを調べられるしくみ。　イ

(3) まだ食べられるのに、すてられてしまう食品。　ウ

(4) 外国から品物を買い入れること。　エ

5 正しいものに○、まちがっているものに×を書きましょう。

1つ5点（15点）　きほん

(1) 輸入すると、季節に関係なくいろいろな食料が手に入る。　○

(2) 輸入した食料は、運ぶきょりが短いので必ず新鮮だ。　×

(3) 外国で不作や争いがあると、輸入できなくなるおそれがある。　○

解説　1 2025年度（概算）はカロリーベースで37%、生産額ベースで66%です。　2 とうふ・みそ・しょうゆは大豆、パン・うどんは小麦からつくります。　3 肉類や牛乳・乳製品をつくる牛やぶたのえさ（飼料）も、多くを輸入しています。　5 輸入品は遠くから運ぶので、時間や燃料がかかります。

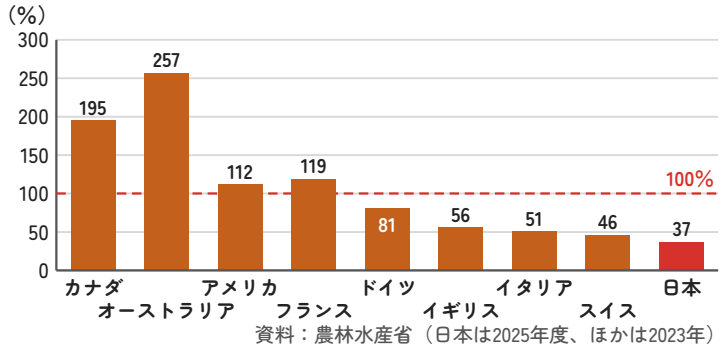
おわったら ○を つけよう　◯ できた！　◯ もういちど！

これからの食料生産とわたしたち　② 活用　答え

月　日 名前

1 グラフは、いろいろな国の食料自給率です。

(1)〜(3)5点 (4)10点（25点）　よく出る



資料：農林水産省（日本は2025年度、ほかは2023年）

(1) 日本は9か国中、何番目に高い？　9番目

(2) 100%をこえる国はいくつ？　4つ

(3) オーストラリアは日本の約何倍？　約7倍

(4) 日本の自給率が低い理由を、「農地」「輸入」ということばを使って書きましょう。

国土がせまく山が多いので広い農地が少なく、小麦や大豆、家畜のえさなどを輸入しているから。

2 資料を読んで答えましょう。

(1)(2)5点 (3)10点（20点）　きほん

日本は、パンやめんに使う小麦の多くを輸入しています。2025年は、**カナダ・アメリカ・オーストラリアの3か国から、輸入する小麦の99.8%**を買っています。　資料：農林水産省「食料・農業・農村白書」

(1) 3か国のうち、北アメリカ大陸にある国を2つ書きましょう。　カナダ　アメリカ

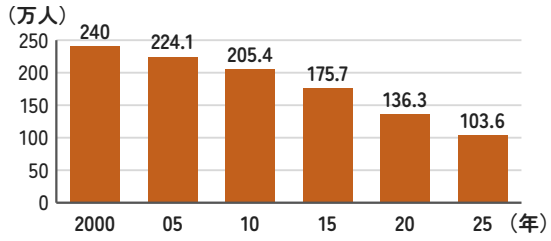
(2) 3か国以外からの小麦の輸入はほとんどない。○か×か。　○

(3) 輸入先が少ない国にかたよると、どんな心配がありますか。

その国で不作や災害、争いなどがおこると、輸入が止まったり、ねだんが上がったりする。

3 グラフは、農業を中心に働く人（基幹的農業従事者）の数です。

(1)(2)(4)5点 (3)10点（25点）　きほん



資料：農林水産省「農林業センサス」

(1) 2025年は2000年とくらべて？　ア 半分以下　イ ほぼ同じ　ア

(2) 2025年、65才以上は69.6%。約何割？　約7割

(3) このまま続くと、どんなことが心配ですか。

農業を続ける人がいなくなり、食料の生産が減ってしまう。

(4) 解決のくふうは？　ア 機械を使い少ない人数で作業　イ 田畑を減らす　ア

4 これからの食料生産のために

1つ10点（30点）　★チャレンジ

(1) 地産地消のよい点を2つ書きましょう。

新鮮な物が食べられる　運ぶ燃料が少ない

(2) 右の資料を見て、食品ロスを減らすために家でできることを書きましょう。

食べきれる量だけ買う・つくる。（賞味期限を確かめて早めに食べる など）

日本の食品ロス（2023年度）
1年間で 約464万トン
1人1日 約102g
＝おにぎり約1こ分
資料：農林水産省・環境省

(3) 日本の食料自給率を上げるために、わたしたちにできることを、この単元の資料の数字を1つ使って書きましょう。

（れい）小麦の自給率は16%しかないので、米粉のパンや国産小麦の食品を選ぶようにする。

解説　1 257÷37＝6.9…　2 (1)は2つとも正しくて5点。　3 103.6÷240＝0.43…　4 (1)は1つ5点。(3)は資料の数字と自分にできることが書けていれば正解。

おわったら ○を つけよう　◯ できた！　◯ もういちど！